

学生便覧 2026年度

薬学部
医療薬学科

B2026-6

目次

I	教育研究上の目的	2
II	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）	2
III	教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）	2
IV	授業科目について	3
V	授業科目の単位と認定	3
VI	卒業に必要な単位数について	3
VII	薬剤師国家試験受験資格について	3
VIII	進級基準等	3
1.	進級基準	3
2.	進級判定の対象となる年次開講科目及び科目数	4
3.	履修登録上限	4
IX	授業科目の学年配当と履修すべき単位数	5
1.	全学部共通基盤科目群	5
2.	外国語科目群	7
3.	キャリア形成科目群	7
4.	専門基礎科目群	8
5.	専門科目群Ⅰ	8
6.	専門科目群Ⅱ	10

履修の手引と手続き

I 教育研究上の目的

薬学部は、超高齢化と国際化が進む日本社会において、医薬品の薬効・安全性の確保や疫病の発症予防に係る教育研究を通じて、質が高く安全・安心な医療サービスを提供し、一人ひとりの豊かで健康な生活を支援できる薬剤師を養成する。

II 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

薬学部 医療薬学科は、所定の単位を取得し、かつ以下に該当すると判断した場合に、学士（薬学）の学位を授与します。

1. 「医療人としての資質」
生命の尊厳や患者・生活者の権利について理解し、医療従事者に求められる倫理観と責任感を持って行動することができる。
2. 「薬学に係る総合的知識」
薬学に係る総合的な知識を身につける。
3. 「薬物治療の実践的能力」
個別最適化した薬物治療の計画を立案し、医薬品の適正かつ安全な使用のための薬学的管理ができる。
4. 「コミュニケーション能力」
一人ひとりの健康な生活を支えるため、医療従事者に求められるコミュニケーション能力を身につけ、適切に活用できる。
5. 「多職種連携能力」
医療・福祉・公衆衛生における多職種連携に参加し、薬の専門家として積極的にコミュニケーションが図れる。
6. 「課題発見・問題解決能力」
薬学的視点に基づき課題を発見し、科学的手法を用いて解決に向けて探究できる。
7. 「情報・科学技術の活用能力」
多様な医療・福祉・公衆衛生の課題に対し、解決に向けて情報・科学技術を適切に活用できる。
8. 「生涯学習の実践」
自己実現に向けて、生涯にわたり薬学に係る知識・技能の向上に研鑽する姿勢を示す。

III 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

薬学部 医療薬学科では、教育研究上の目的及び学位授与方針に基づき、薬剤師としての専門性を身に付けた医療人を育成するため、以下に掲げる方針によりカリキュラム（教育課程）を編成します。

1. 文理融合型リベラルアーツとして、幅広い教養、新たなリテラシー及び総合的な洞察力を身に付けるため、全学部共通基盤科目群を設置する。
2. グローバル化に対応した国際感覚を養い、国内外の人々と協調的な人間関係を築きあげる力を身につけるため、外国語科目群を設置する。
3. 多職種連携に関わる全ての人々の役割を理解し、チーム医療に携わる技能・態度を身につけるため、キャリア形成科目群を設置する。
4. 薬学の基礎を学び、臨床の知識・技能につながる科学的な知識の基盤を築くため、専門基礎科目群を設置する。
5. 薬物療法に必要な体系的知識・技能を身につけるため、専門科目群Ⅰを設置する。
6. 薬物療法における実践的能力と課題解決力を醸成するとともに生涯学習に必要な姿勢や態度を身につけるため、専門科目群Ⅱを設置する。
7. アセスメント・ポリシーに基づく学修アセスメント・プランを提示し、学位授与方針に示す能力の修得状況及び学生の成長に伴う達成度を客観的に測定、評価する。

以上の教育課程の編成に基づき、各授業内容に応じて、知識の修得を目的とする「講義」、知識や理論を組み合わせ実践力を養うことを目的とする「演習」、事象の検証や実践的な応用、技能や態度の修得を目的とする「実験」、「実習」を取り入れた授業を展開します。また、社会のニーズを踏まえた教育を展開することができるよう、主に臨床系科目に実務家教員を配置します。さらに、合理的な授業人数の調整や ICT を活用した教育方法を導入し、より効果的な教育を実施します。

IV 授業科目について

薬学部 医療薬学科における授業科目は、全学部共通基盤科目群、外国語科目群、キャリア形成科目群、専門基礎科目群、専門科目群 I 及び II から構成されている。

V 授業科目の単位と認定

本学部では単位制が採用されている。単位制とは、ひとつひとつの授業科目に一定の基準により定められた単位があり、履修授業科目に対して、試験もしくは、その他の方法により学習評価をしたうえで、その単位を認定する制度である。単位の認定においては、S・A・B・C の4段階の評価を行い、F 評価では単位を認定しないものとする。なお、H は単位振替により単位を認定したことを表す。

VI 卒業に必要な単位数について

卒業に必要な単位は、以下の表に示すとおりである。

科目群	各科目群に必要とされる単位数	
全学部共通基盤科目群	9 単位	
外国語科目群	6 単位	
キャリア形成科目群	12 単位	
専門基礎科目群	3 単位	
専門科目群	専門科目群 I	127 単位
	専門科目群 II (ゼミ研究・実践科目)	29 単位
卒業に必要な総単位数	186 単位	

VII 薬剤師国家試験受験資格について

本学部は、文部科学省令・厚生労働省令で定める基準に適合するものとして、文部科学大臣の指定した学校教育法に基づく大学として認可を受けている。本学部の所定の単位を修得し、卒業することにより、薬剤師国家試験受験資格を得る。

VIII 進級基準等

1. 進級基準

1年次から4年次開講科目として以下2. の表に示す必修科目（キャリア形成科目群、専門基礎科目群、専門科目群 I、専門科目群 II のうちの必修科目）の単位を修得しなければ、次学年に進級できない。ただし、総合演習A～Dを除く、未修得必修科目数が3科目以下の者の進級を認めることがある。なお、未修得必修科目数は、下位学年の未修得必修科目数を加算したものをいう。

当該学年での実習科目の単位は必ず修得していること。

1年次から2年次への進級にあたっては、総合演習Aを必ず修得していること。

2年次から3年次への進級にあたっては、総合演習Bを必ず修得していること。

3年次から4年次への進級にあたっては、総合演習Cおよび全学部共通基盤科目群*（すべての必修科目を含む9単位）と外国語科目群**（6単位）を必ず修得していること。

*全学部共通基盤科目群のうち、「大学での学びの基礎を固める」、「現象世界をつかむ」、「デジタル社会を切り拓く」、「現代社会の課題に挑戦する」、「歴史をひもとく」、「社会の構造的変動をとらえる」、「世界を創造する」、「知の知を追究する」、「心と身体の充実をはかる」の中より、アカデミック・スキルズ及びデータサイエンス I を含めて、9単位を3年次までに修得していること。

**外国語科目群のうち、Fundamentals of English I から English for Advanced Studies B までの8科目より、6単位を3年次までに修得していること。留学生は、日本語 I から社会と文化の日本語 B までの8科目を、上記の英語8科目に替えて履修することができる。

4年次から5年次への進級にあたっては、総合演習Dを必ず修得していること。

また、4年次終了時に下位学年の未修得必修科目がある場合は、5年次に進級できない。

5年次に病院・薬局実務実習の単位修得が見込めない場合、5年次から6年次への進級を認めない。

2. 進級判定の対象となる年次開講科目及び科目数

1年次配当必修科目 《20科目》	2年次配当必修科目 《20科目》	3年次配当必修科目 《20科目》	4年次配当必修科目 《15科目》
科目名	科目名	科目名	科目名
医療薬学基礎ゼミ 薬学概論 A 薬学概論 B 情報メディア演習 コミュニケーション論演習 医療倫理 薬学基礎化学 薬学基礎生物 薬学基礎物理 化学 A 化学 B 解剖生理学 生物学 生理化学 A 物理化学 分析科学 A 公衆衛生学 基礎栄養学 基礎薬学実習 総合演習 A	ライフステージ IPE A 薬学外国書講読 有機化学 A 有機化学 B 生理化学 B 分析科学 B 物理薬剤学 細胞生理学 微生物学 A 微生物学 B 食品衛生学 環境衛生学 薬理学序論 薬理学 A 薬理学 B 生薬学 医療薬剤学 A 化学系実習 生物系実習 総合演習 B	ライフステージ IPE B Practical English for Pharmacists 生体防御学 分子生物学 薬理学 C 医薬品化学 A 病態解析学 臨床化学 薬物治療学 A 薬物治療学 B 薬物治療学 C 医療薬剤学 B 医療薬剤学 C 医薬品情報学 臨床薬物動態学 製剤学 A 製剤学 B 医療薬学系実習 A 医療薬学系実習 B 総合演習 C	ライフステージ IPE C 薬剤師倫理 薬品放射科学 医薬品化学 B 薬物治療学 D 漢方医学 臨床栄養学 病態解析学演習 薬事関係法規 医療統計学 衛生薬学演習 薬物治療学演習 病院・薬局事前学習 卒業研究及び卒業論文 A 総合演習 D
◎進級判定にかかる対象科目数 《20科目》	◎進級判定にかかる対象科目数 《20科目》	◎進級判定にかかる対象科目数 《20科目》	◎進級判定にかかる対象科目数 《15科目》

3. 履修登録上限

クォーター毎の履修登録上限は年次ごとに異なり、1年次 20 単位、2年次 20 単位、3年次 20 単位、4年次 20 単位、5年次 12 単位、6年次 20 単位とし、サマーセッション及びウィンターセッションでは、年次に関わらずそれぞれ4単位までとする。また、年間の履修登録については原則 50 単位未満とする。クォーター毎の上限、年間の上限のいずれも超えてはならない。ただし、大学が教育上適当と認める場合は、履修登録上限の単位数を超えて履修することを認めることがある。

IX 授業科目の学年配当と履修すべき単位数

1. 全学部共通基盤科目群

全学部, 全学年の学生を対象として設置される科目である。各学部の専門の学びの基盤となる文理の壁を越えた幅広い教養を身に付けることを目的とする。

*単位数に○印を付してある科目は必修を示す。

系 列	授業科目	開講年次及び単位数						最低修得 単 位 数	備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	6年		
全 学 部 共 通 基 盤 科 目 群	基礎を固める 大学での学びの	①						1 単位	
	現象世界をつかむ	自然科学概論	2						8 単位 「現象世界をつかむ」、「デジタル社会を切り拓く」、「現代社会の課題に挑戦する」、「歴史をひもとく」、「社会の構造的変動をとらえる」、「世界を創造する」、「知の知を追究する」、「心と身体の充実をはかる」までの授業科目のうち「データサイエンス I」を含め 8 単位を選択し、修得すること。 I 及び II に区分されている科目において II の科目を履修するためにはあらかじめ同一科目の I を修得しなければならない。
		生命現象の理解とその応用－生命科学	2						
		生物からみた環境の仕組み－生態学	2						
		食環境論	2						
		香りと環境	2						
		身体を理解	2						
	デジタル社会を切り拓く	デジタルアプリA	2						
		デジタルアプリB	2						
		情報セキュリティA	2						
		情報社会と情報倫理	2						
		人工知能論	2						
		データサイエンスI	②						
		データサイエンスII		2					
		モデル化とシミュレーション		2					
		プログラミングA	2						
		アルゴリズムA	2						
		情報システム論	2						
		統計学		2					
		データ分析の基礎(解析)	2						
	データ分析の基礎(線形代数)	2							
	インターネット配信	2							
	現代社会の課題に挑戦する	観光の現在と未来	2						
		ヘルスツーリズム	2						
		社会心理学	2						
		生活と文化	2						
		生涯スポーツ概論	2						
		スポーツ社会学	2						
		ボランティア論	2						
		コミュニケーションの基礎	2						
		域学共創プロジェクトA	2						
		域学共創プロジェクトB	2						
		域学共創プロジェクトC	2						
域学共創プロジェクトD		2							
域学共創プロジェクトE		2							
域学共創プロジェクトF	2								

系列	授業科目	開講年次及び単位数						最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年	5年	6年		
	域学共創プロジェクトG	2							
	域学共創プロジェクトH	2							
	域学共創プロジェクトI	2							
	域学共創プロジェクトJ	2							
歴史をひもとく	史学概論	2							
	日本史を学ぶ	2							
	アジア史概論	2							
	現代史入門	2							
	房総の文化と歴史	2							
	映像メディア史	2							
	音楽史	2							
全学部共通基盤科目群	政治学入門	2							
	経済学入門	2							
	社会と経営	2							
	社会と会計	2							
	マーケティング論	2							
	広告戦略論	2							
	社会学	2							
	社会調査	2							
	法律学概論	2							
	日本国憲法	2							
	著作権	2							
	社会福祉学A	2							
	社会福祉学B	2							
経営情報基礎論A	2								
世界を創造する	世界遺産のいま	2							
	美学・芸術学	2							
	表象文化研究	2							
	世界の文学	2							
	演劇研究	2							
	古典芸能研究	2							
	文学を読む	2							
知の知を追究する	教育学	2							
	心理学	2							
	基礎の数学	2							
	ジェンダー論	2							
	根拠への問いー哲学へのとびら	2							
	異文化適応論	2							
	宗教学概論	2							
倫理学概論	2								
実をはかる心と身体の充	スポーツ科学A	1							
	スポーツ科学B	1							
	しゃべりのスキルUp I	2							
	Drug Action Science	2							

2. 外国語科目群

グローバル化に対応した国際感覚を養い、国内外の人々と協調的な人間関係を築きあげる力を身に付けることを目的とする。

系列	授業科目	開講年次及び単位数						最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年	5年	6年		
外国語科目群	Fundamentals of English I	2						6単位	<p>「Fundamentals of English I」から「English for Advanced Studies B」までの8科目より6単位を選択し、修得すること。</p> <p>留学生は「日本語 I」から「社会と文化の日本語 B」までの8科目を、上記の英語科目に替えて履修することができる。</p> <p>I及びIIに区分されている科目においてIIの科目を履修するためにはあらかじめ同一科目のIを修得しなければならない。</p>
	Fundamentals of English II	2							
	Oral Fluency I	2							
	Oral Fluency II	2							
	English for Specific Purposes A	2							
	English for Specific Purposes B	2							
	English for Advanced Studies A	2							
	English for Advanced Studies B	2							
	TOEIC Preparation A	2							
	TOEIC Preparation B	2							
	TOEIC Preparation C	2							
	TOEIC Preparation D	2							
	日本語 I	2							
	日本語 II	2							
	日本語アカデミック・ライティング	2							
	日本語アカデミック・スピーキング	2							
	統合日本語 I	2							
統合日本語 II	2								
社会と文化の日本語 A	2								
社会と文化の日本語 B	2								

3. キャリア形成科目群

多職種連携に関わる全ての人々の役割を理解し、チーム医療に携わる技能・態度を身に付けることを目的とする。

*単位数に○印を付してある科目は必修を示す。

系列	授業科目	開講年次及び単位数						最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年	5年	6年		
キャリア形成科目群	医療薬学基礎ゼミ	①						12単位	
	薬学概論 A	②							
	薬学概論 B	①							
	医療倫理	②							
	情報メディア演習	①							
	コミュニケーション論演習	①							
	ライフステージ IPE A		①						
	ライフステージ IPE B			①					
	ライフステージ IPE C				①				
	薬剤師倫理				①				

4. 専門基礎科目群

薬学の基礎を学び、臨床の知識・技能につながる科学的な知識の基盤を築くことを目的とする。

*単位数に○印を付してある科目は必修を示す。

系列	授業科目	開講年次及び単位数						最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年	5年	6年		
専門基礎科目群	薬学基礎化学	①						3 単位	
	薬学基礎生物	①							
	薬学基礎物理	①							

5. 専門科目群 I

薬物療法に必要な体系的知識・技能を身に付けること、及び薬物療法における実践的能力と課題解決力を醸成するとともに生涯学習に必要な姿勢や態度を身につけることを目的とする。

*単位数に○印を付してある科目は必修を示す。

系列	授業科目	開講年次及び単位数						最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年	5年	6年		
専門科目群 I	薬学外国書講読		②					127 単位	専門科目群 I の中より、必修を含め 127 単位以上を選択し、修得すること。
	化学 A	②							
	化学 B	②							
	有機化学 A		②						
	有機化学 B		②						
	化学系演習		1						
	解剖生理学	②							
	生物学	②							
	生理化学 A	②							
	生理化学 B		②						
	物理化学	②							
	分析科学 A	②							
	分析科学 B		②						
	物理薬剤学		②						
	薬品放射科学				②				
	細胞生理学		②						
	生物系演習		1						
	微生物学 A		②						
	微生物学 B		②						
	生体防御学			②					
分子生物学			②						
公衆衛生学	②								
基礎栄養学	②								
食品衛生学		②							
環境衛生学		②							

系列	授業科目	開講年次及び単位数						最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	6年		
専 門 科 目 群 I	毒性学			2					
	化粧品論				2				
	衛生薬学演習				①				
	薬理学序論		②						
	薬理学 A		②						
	薬理学 B		②						
	薬理学 C			②					
	生薬学		②						
	医薬品化学 A			②					
	医薬品化学 B				①				
	病態解析学			②					
	病態解析学演習				①				
	臨床化学			②					
	薬物治療学 A			②					
	薬物治療学 B			②					
	薬物治療学 C			②					
	薬物治療学 D				②				
	薬物治療学演習				①				
	医療薬剤学 A		②						
	医療薬剤学 B			②					
	医療薬剤学 C			②					
	医療薬剤学 D			2					
	医薬品情報学			②					
	臨床薬物動態学			②					
	製剤学 A			②					
	製剤学 B			②					
	臨床栄養学				②				
	食品機能学				2				
	先端医療論				2				
	臨床薬理学				2				
	漢方医学				②				
	薬事関係法規				②				
	医療統計学				②				
薬剤疫学				2					
基礎薬学実習	②								
化学系実習		②							
生物系実習		②							
医療薬学系実習 A			②						
医療薬学系実習 B			②						

系列	授業科目	開講年次及び単位数						最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年	5年	6年		
専門科目群 I	病院・薬局事前学習				⑤				
	プロジェクト薬学	1							
	Introduction to Health Science	2							
	Practical English for Pharmacists			②					
	薬学グローバル研修	2							
	薬学実践グローバル研修				2				
	総合演習 A	①							
	総合演習 B		①						
	総合演習 C			①					
	総合演習 D				①				
	総合演習 E				1				
	薬学総合演習 A					②			
薬学総合演習 B						②			

6. 専門科目群 II

薬物療法における実践的能力と課題解決力を醸成するとともに生涯学習に必要な姿勢や態度を身につけることを目的とする。

*単位数に○印を付してある科目は必修を示す。

系列	授業科目	開講年次及び単位数						最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年	5年	6年		
専門科目群 II (ゼミ研究・実践科目)	病院・薬局実務実習					⑳		29 単位	「ファーマシューティカルケア特論演習」から「アドバンスト実務実習」までの授業科目のうち3単位以上を選択し、修得すること。 共用試験に合格し、5年次に進級した学生のみ、病院・薬局実務実習を履修することができる。
	卒業研究及び卒業論文 A				①				
	卒業研究及び卒業論文 B					③			
	卒業研究及び卒業論文 C						②		
	ファーマシューティカルケア特論演習					2			
	薬局セルフケア特論演習 A					2			
	薬局セルフケア特論演習 B					2			
	薬局機能特論演習					2			
	地域ケア特論演習 A					2			
	地域ケア特論演習 B					2			
	ライフステージ IPE D					1			
	ジェンダー・ライフステージ薬学特論演習					2			
	病院機能特論演習					2			
	医薬品開発特論演習					2			
アドバンスト実務実習					2				